

第3回 (3) 第2次日本文化ブーム

第2次日本文化ブームは終戦から冷戦終結期（東西ベルリンの壁崩壊）。戦後、日本が国際社会に復帰するにあたり、文化の果たした役割は無視することはできない。

戦後の日本文化ブームあるいは、世界に向けて日本文化が発信され、評価を受けたものとして日本映画、オリンピックと万博、TVドラマ『将軍』、ファミコンを取り上げてみたい。

① 日本映画

戦後の日本映画は1950年～1960年の間に国際映画祭に登場し、輝かしい成果を残している。その後ももちろん日本映画は世界に発信されている。また、黒澤明（1910-1998）の海外における評価は日本人が思う以上のものである。まずは、注目しておきたい映画を取り上げておきたい。

- 1951年 第12回ベネチア国際映画祭金獅子賞：黒澤明監督『羅生門』
- 1954年 第7回カンヌ国際映画祭グランプリ：衣笠貞之助監督『地獄門』
- 1954年 第15回ベネチア国際映画祭銀獅子賞：黒澤明監督『七人の侍』
- 1957年 ロンドン映画祭 最も独創的な映画賞：黒澤明監督『蜘蛛巣城』
*シェイクスピアの『マクベス』の翻案
- 1958年 第30回アカデミー賞4部門受賞：ジョシュア・ローガン監督『サヨナラ』*ナンシー梅木、助演女優賞。
- 1958年 第30回アカデミー賞7部門受賞：デヴィッド・リーン監督『戦場にかける橋』*早川雪洲、助演男優賞ノミネート。
- 1958年 第19回ベネチア国際映画賞金獅子賞：稲垣浩監督『無法松の一生』
- 1960年 ジョン・スタージュ監督『荒野の七人』（1954年の黒澤明監督『七人の侍』を下敷きにした映画が大ヒット）（ユル・ブリナー主演）
- 1980年 第33回カンヌ国際映画祭グランプリ：黒澤明監督『影武者』

1983年 第36回カンヌ国際映画祭グランプリ：今村昌平監督『楳山節考』

1985年 第58回アカデミー賞衣裳デザイン賞：黒澤明監督『乱』

(ワダ・エミ)

特に黒澤明監督は国際映画祭で受賞したということ以上に、国際的にも映画界において多大な影響を与えた。ジョージ・ルーカス監督『スター・ウォーズ』も黒澤明監督『七人の侍』に強い影響を受けていることは周知の通りである。『サヨナラ』は朝鮮戦争時の日本人女性とアメリカ軍人との恋物語である。日本映画として脚光を浴びたのは概して「サムライ物」であるが、“samurai”という言葉はすでに現在でも英語に定着していることを考えると、その貢献を小さくない。

② オリンピックと万博

日本でオリンピックが開催されたのは1964年の東京オリンピックと1972年の札幌冬季オリンピックである。(その後、1998年には長野冬季オリンピックが開催されている。)

1964年の東京オリンピック開催は戦後初めての日本全体が世界中の人々を受け入れるまさに超大イベントであった。国内インフラ整備としては東海道新幹線をはじめとした鉄道や道路網の拡充、カラー放送・カラーテレビの普及、国際放送の整備などがある。また、東京オリンピック＝国際化＝英会話という図式もあり、1963年には実用英語検定試験（英研）も始まった。

1970年には岡本太郎(1911-1996)がテーマ展示プロデューサーを務め、『太陽の塔』を設計し、話題となったのが大阪万国博覧会である。この時の最大の展示品はアメリカ館の月の石であった。オリンピックもそうであるが、大きな国際大会が日本で開催されたことにより、多くの外国人が日本を訪れた。日本は「サムライ」というイメージからここでようやく産業の国、経済大国への道を歩むこととなる。こうした国際的な大イベントと呼応して政府にも動きがあった。1964年には外務省に情報文化局文化事業部が設立、1972年には外務省の外郭団体として国際交流基金が設立されたことだ。

外務省のホームページには以下のように概要が示されている。

独立行政法人国際交流基金は、わが国に対する諸外国の理解を深めるとともに、国際相互理解を増進し、文化等の分野で国際貢献を行うことによって我が国の調和ある対外関係の維持及び発展を図ることを目的とする、外務省所管の独立行政法人です。

昭和40年代半ば、経済面における日本の急速な成長と国際社会でのプレゼンスの高まりの中で、文化面における日本の発信能力を強化していく必要性が認識されるようになりました。1972年1月、福田外務大臣（当時）は、大規模な基金を有し、かつ強力な実施組織を備えた文化交流機関として、国際交流基金を設立する構想を発表。これを受け、同年10月2日、国際交流基金（Japan Foundation）が外務省所管の特殊法人として発足しました。その後、平成15年10月に独立行政法人化し、現在に至っています。

国際交流基金は、外務省文化交流部の定めた文化外交政策を実施する機関として文化交流事業を行うとともに、民間で文化交流事業を行う諸団体や個人に対して助成を行うことを通じて、様々な角度から外交上必要の高い国際文化交流を推進し、もって我が国の調和ある対外関係を維持・発展されることに努めています。

設立当初、基金の運用資金は約50億円でしたが、その後、政府からの追加出資が行われ、平成15年10月1日の独立行政法人への移行時の政府出資金は約1,110億円です。その運営は、政府からの運営費交付金、政府出資金の運用益、国際交流基金フォーラムの運営、日本語能力試験等を通じた自己収入及び民間からの寄附金等により賄われています。⁽¹⁾

③ TVドラマ『将軍』

TVドラマ『将軍』（*Shogun*, 1980）が全米で大ヒットし、再び「サムライ・ブーム」が到来する。原作はジェームズ・クラベル（James Clavell, 1924–1994）の同名小説。1980年9月15日～19日（5日間連続放送）でジェリー・ロンドン監督でNBCで制作された。ウィリアム・アダムズ（William Adams, 1564–1620／日本名：三浦按針）をモデルに江戸時代初頭に日本に漂着したイ

ギリス人航海士ジョン・ブラックソーンの日本での激動の生涯を描く。1981年のエミー賞、ゴールデン・グローブ賞を受賞している。主なキャストは以下の通りである。

ジョン・ブラックソーン	チリヤード・チェンバレン
吉井虎長	三船敏郎
まり子	島田陽子
柏木近江	目黒祐樹
柏木矢部	フランキー堺
石堂和成	金子信雄
ナレーション	オーソン・ウェルズ

日本でのTV放送は1981年3月30日～4月6日のテレビ朝日系列で放映された。三船敏郎(1920-1997)は黒澤明映画には欠かせない俳優であり、この時には海外でもすでに周知の存在であった。

『将軍』(1980)以後は全米にニンジャ・ブームを巻き起こしたショー・コスギ(Sho Kosugi, 1948-)のニンジャ・シリーズがある。『燃えよニンジャ』(*Enter the Ninja*, 1981)、『ニンジャII/修羅ノ章』(*Revenge of the Ninja*, 1982)、『ニンジャIII・転生ノ章』(*Ninja III: The Domination*, 1983)、『デス・オブ・ニンジャ』(*Nine Deaths of the Ninja*, 1984)などがある。

このTVドラマ『将軍』の最も大きな意味合いはアメリカ人の目から見た日本を映画化したことである。このことは後年のエドワード・ズウィック監督『ラスト・サムライ』(*The Last Samurai*, 2003)も同様である。

④ ファミコン

「ファミコン」とは「ファミリーコンピュータ」ことで、1983年に任天堂から発売されたゲーム機である。同年、セガから家庭用ゲーム機「SG1000」、東京ディズニーランドが開業した年でもある。まさにアミューズメント&ゲーム時代の到来である。

任天堂は1985年に『スーパーマリオブラザーズ』を発表し、大ヒットとな

った。同じ年、家庭用ゲーム機 Nintendo Entertainment System としてアメリカでも発売され、アメリカのTVゲーム産業を復活させたとも言われている。セガも 1988 年に『テトリス』を発表している。セガはその後、1993 年には 3D 対戦格闘型アーケードゲーム機『バーチャルファイター』、1995 年にはシール作成機プリント倶楽部を発表している。

こうしたファミコンに代表されるゲーム機は、現在では映像・音楽・ゲームなどは、デジタルコンテンツ産業として日本を支える一大産業となっている。

注

- (1) 「外務省ホームページ」(http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/rinen/kokusai_2.html) (2010 年 1 月 22 日)

略年表

- 1945 年 ポツダム宣言受諾。(太平洋戦争終結)
- 1950 年 文化財保護法
- 1951 年 サンフランシスコ平和条約調印。国連教育科学機関 (ユネスコ) 加盟。
- 1952 年 ヘルシンキ・オリンピックに戦後初参加。
鉄腕アトム。
日米フルブライト交流開始。
- 1953 年 フランスとの文化協定署名。(日本政府が最初に署名した文化協定)
- 1956 年 国際連合に加盟。
- 1957 年 国際ペンクラブ大会。(東京で開催)
ポリショイ劇場バレエ団来日公演。
- 1958 年 モスクワ芸術座来日公演。
- 1960 年 ジャン・ルイ・バロー一座来日公演。

- 1962年 コメディ・フランセーズ来日公演
- 1964年 東京オリンピック。
外務省情報文化局文化事業部設立。
- 1965年 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞。
- 1966年 ビートルズ来日コンサート。
- 1968年 川端康成、ノーベル文学賞受賞。
- 1970年 大阪・万国博覧会。
- 1972年 冬季オリンピック札幌大会。
国際交流基金設立。
- 1973年 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞。
- 1974年 佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞。
- 1975年 エリザベス女王来日。
- 1978年 成田新東京国際空港開港。
- 1981年 福井謙一郎、ノーベル化学賞受賞。
- 1983年 東京ディズニーランド開園。
- 1987年 マドンナ来日公演。マイケル・ジャクソン来日公演。
- 1988年 竹下総理ロンドンスピーチ。（「世界に貢献する日本」としての三本柱のひとつとして国際文化交流を挙げる）